



32年度の国保事業に見る

給付費年ごことに上昇

一人年に三回以上診療、一世帯当平均五千円

王座^は結核、多い事故疾病

⑩胃及び十二指腸　終腹直後に比べて減少してはいますが、胃下壁に潰瘍等の患者は依然と多くなっています。

中氣とガンが死亡首位

結核は新薬出現で低姿勢

[illegible]

多いク病

目立って来た肝臓疾患

⑤骨及び運動器病
最近児童検査などで発見されて治療ははじめたというような先天性股関節脱臼等が割に多く目立っていますが、その他五十肩、リウマチ等も案外多くなっております。

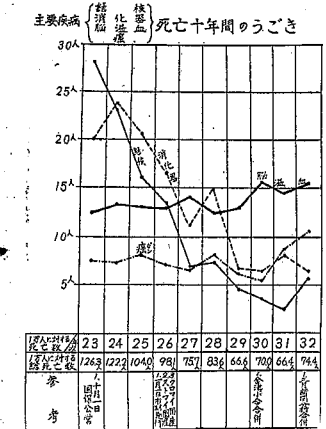
⑦アレルギー性
近頃アレルギー性の病気にも多くなっている乳児のタルル病、喘息等があげられ、また、タルル病は治るものと相違ないと思われる行われ、そのため医療費もさか

死亡第二位、金

⑮ 癌(がん) 胃癌・乳癌・子宮癌とすべての癌をま

そのうちでも高血圧が
然目立っております。

減少の主なものは、糖類で
 ぶえているのは、糖原系で
 ぶえのうちのものは、血圧が
 断然目立っております。



健康施設のより一層

みなさんの国保にご協力を望んでやう。

胃十二指腸病

ている疾病の動き

⑩	⑪	⑫
胃十二指腸病	虫垂炎ヘルニア	尿管の病変

生きている疾病の動き										(総給付件数に対する割合)											
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳		
結核病	低炭水化物病	肺結核病	呼吸器病	糖尿病	循環器病	消化器病	腎臓病	泌尿器病	神経系病	皮膚病	眼耳鼻口病	骨格筋系病	不慮の事故	打撲・火傷・凍傷	中毒・薬物中毒	自殺	交通事故	その他	その他		
昭和31年度 総給付件数 73,250件 100%に相当	3.4	35	38	5.3	4.5	3.8	③ 肺動脈炎 イ 胃炎ノ別	31.0	④ 喘息 鼻 喉炎	13.0	5.0	4.3	11	29	⑤ (イ7のイ4) 眼病 23 皮膚病	4.5	15	⑥ 虫咬 0.74	⑦ 虫咬 0.74	⑧ 虫咬 0.74	
31年、32年 比				70		42									22						
昭和32年度 総給付件数 54,493件 100%に相当	30	27	31		5.1	⑧ 肺動脈炎 イ 胃炎ノ別	30.1			13.2	4.9	3.6	28	22	9.2	20	5.0	16	0.63	0.63	0.63

明土吉杵横宮佐栗小石昆成
間橋田鞭山腰藤原川 沢
鉄太寅源源新政祐安德信勝
太 三 太
郎郎一 郎吾治治一郎榮意男